

## ニホンナシ「あきづき」に発生する 果肉障害の発生要因と対策技術

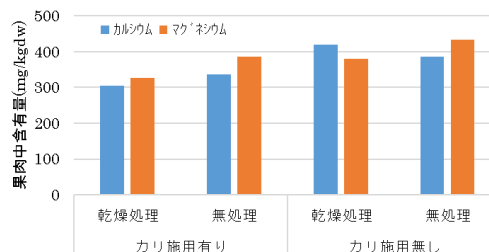
国育成の中生品種「あきづき」に発生する果肉障害は2種類あり、コルク状障害は700g以上の大玉に発生が多く、水浸状障害は熟度が進むと発生が多くなります。本障害は、土壌のカリが多いことや、7月に乾燥条件となることによって、果実へのカルシウム、マグネシウムの移行が抑制されて発生します。障害発生を軽減させるためには、カリ施用量を削減し、カルシウム、マグネシウム資材の土壌施用やカルシウム資材の葉面散布、大玉にならない着果管理等が有効な対策と考えられます。



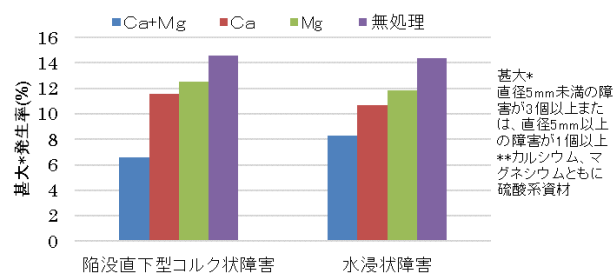
陥没直下型コルク状障害



水浸状障害



土壌へのカリウム施用と乾燥処理が  
乾燥処理直後の果実中（果肉）成分に及ぼす影響



カルシウム、マグネシウム資材\*\*の  
土壌施用が果肉障害発生に及ぼす影響

本研究は農水省委託プロジェクト「実需者ニーズに対応した加工適性をもつ果樹品種の開発」の中で実施しました。

(果樹担当 TEL0480-21-1141)